

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）	
2 指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和3年度 22,126人（前年度比 129.1%） ・令和2年度 17,134人（前年度比 50.2%） ・令和元年度 34,122人	
	《事業》 ・富沢遺跡の保存・公開事業、旧石器時代の復元林の維持管理・公開事業、年4回の企画展を含む展示事業、普及啓発事業、調査研究事業	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 111,181千円（110,704千円） ・ その他市が負担した費用 4,739千円（330千円） 《収入》 ・ 使用料収入 4,630千円（3,362千円） ・ その他収入 102千円（178千円）	
	（ ）は前年度決算額	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 通年で実施している利用者アンケートは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止 ・ 令和3年12月1日～23日まで展示や事業内容、職員の対応等についてのアンケートを実施 ・ 運営懇談会として長町南小学校と鹿野小学校に聞き取り調査を実施	

### 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、富沢遺跡の保存・公開と復元林の維持活用等について職員が十分理解している。また、展示事業や体験・講座などの普及啓発事業、学校との連携、資料の保管・調査を通して、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績、配置状況は適切であり、事業計画書の通り開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の保護や事故防止対策、事故・災害発生時の対応体制も確立され、事故等発生時には所管課へ迅速に報告書が提出されている。また、職員朝礼が毎朝行われており、連絡事項だけでなく、研修内容や事故発生時の対応等の情報共有が徹底されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備、備品は適切に管理され、利用者にとって快適かつ安全に過ごせる環境を保持し、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画に則った取組みが行われている。地下展示室の遺構保存については、日常の温湿度管理や観察とともに保存処理検討会の指導を受けながら、適切に管理している。2万年前の森を復元した野外展示「氷河期の森」についても、日常的な観察とともに植生検討会の指導を受けながら、病害虫の駆除や植栽の手入れを行い、適切に維持している。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティング等を通じて共有し、改善を図っている。また、パンフレットやチラシのほか、ホームページやFacebook・YouTube等のウェブ上の広報媒体を通じて幅広い世代に情報を発信し、広報活動にも積極的に取り組んでいる。	28/28

<p>V 施設固有の基準</p>	<p>協定書や仕様書等に従って適切に施設を管理するとともに、事業計画書に基づき適切に事業を実施している。新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ、学校・NPOなどの外部機関と連携して事業を展開し、地域社会とも良好な関係を維持している。また、普及啓発事業（自主事業）について下記の点を加点評価する。</p> <p>①「歴史的生活体験教室 親子でつくろう古代米」は、隣接する水田を所有者から借用し、親子共同で古代米（紫黒米）を栽培する体験教室である。環境学習・歴史学習・生活学習の機会を提供して学習効果・満足度ともに高く、参加者周辺やそれ以外の市民・地域への波及効果も見込めることから当事業を評価する。</p> <p>②「ミュージアムシアター 狩人登場」は、演劇という手段によって、遺構にのこされた焚火や石器づくりといった人類活動の痕跡を来館者に対して実際的かつ印象的に示すことができる展示である。独自性があり、公演ごとに課題を探りながら内容を充実させており、新鮮で魅力的な展示が継続している点を評価する。</p>	<p>15/14</p>
------------------	--	--------------

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
	<p>管理運営にあたっては、所管課と協議しながら協定書等に基づき適切に行った。新型コロナウイルス感染症対策として、仙台市ガイドラインに準じた施設管理マニュアル・団体予約者への利用案内の作成、チェックリストの作成・公開を行ったほか、消毒作業・パーティション設置・注意喚起表示等も継続して行った。また空調機器・衛生設備・消防防災設備等の修繕・改修、長寿命化改修工事を念頭に施設・設備の管理を心掛けた。地下展示室の遺構保存処理・野外展示の維持管理は、専門家の指導を受けながら適正に進めた。</p> <p>事業は、コロナ禍の影響で当初の計画を大幅に変更した。展示事業では特別企画展の規模を縮小し、企画展を4回開催した。日本各地の博物館を紹介するパネル展示、SMMA参加館に協力を求め石に関わる資料を集めた展示等、新たな試みを行った。調査研究事業は、常設展示リニューアルに向けた内容のほか、保存遺構の現状と評価をまとめ調査研究報告2021に報告した。普及啓発事業は、1回あたりの参加者数を制限しつつ、実施回数を増やすことで学習機会をできる限り減らさないよう工夫し、「たのしい地底の森教室」「体験！発見！地底の森」等を開催した。事業団自主財源事業も5件実施し、参加者から高い評価を得た。学校連携は利用学習事業、中学生職場体験、出前型授業等に積極的に取り組んだ。また学校の部活動や生涯学習グループの活動機会が著しく減少したことを踏まえ、地元の高校や住民グループ等に当館イベントへの参加や協力を積極的に依頼し、活動機会の提供も心掛けた。</p> <p>今後も社会情勢や動向に留意しながら、生涯学習施設としての機能を強化させ、また地域住民と連携・協力し地域の魅力を現出させる活動を推進していく。また各地のミュージアム等と連携し、オンラインも活用しながら富沢遺跡の意義・価値の創出と発信を心掛け、仙台市の文化行政の一端を担っていく。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の管理運営体制については、協定書や仕様書等に基づき適切に業務が行われている。施設の維持管理については、建物や設備の老朽化がみられるなかで日常的な監視を続け、災害や老朽化による設備の異常があった場合にも迅速に対応している。富沢遺跡の保存管理については、温湿度や塵埃等の日常管理と観察を継続し、旧石器時代の復元林についても日常管理を欠かさず、どちらも専門家の指導を受けて適切な手法による維持管理を実施している。今後も遺跡の保存と施設の安全性の向上を図りながら、引き続き長期的な施設の管理・改修計画を検討することを望む。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館や展示事業等の規模縮小を余儀なくされながらも、利用者数はやや持ち直してきている。コロナ禍を意識した運用マニュアルをもとに安心・安全な運営が心掛けられ、講座等のオンライン配信も的確に用いられている。</p> <p>普及啓発事業については、感染症対策を取りながら、小中学校の利用学習や出前授業等を通じて学校連携や多様な学習機会が提供されている。さらに独自性の強い自主事業への取り組みは高く評価される。広く市民の学習活動を支援するという点で、設置目的にも合致しているといえる。また、Facebook・YouTube等の広報ツールの利用が軌道に乗ってきた一方、今後は地下展示室等での通信環境の整備が課題と思われる。</p>	<p>S</p>

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

<p>特記事項</p>
-------------

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課